

平成24年第11回

荒川区教育委員会定例会

平成24年6月8日

於) 特別会議室

荒川区教育委員会

平成24年荒川区教育委員会第11回定例会

1 日 時	平成24年6月8日	午後1時15分
2 場 所	特別会議室	
3 出席委員	委 員 長 委員長職務代理者 委 員 委 員 教 育 長	小 林 敦 子 青 山 侖 高 野 照 夫 高 田 昭 仁 川 寄 祐 弘
4 出席職員	教 育 部 長 教 育 総 務 課 長 教 育 施 設 課 長 社 会 教 育 課 長 社 会 体 育 課 長 指 導 室 長 南 千 住 図 書 館 長 子 育 て 支 援 課 長 書 記 書 記 書 記 書 記	谷 嶋 弘 佐 藤 泰 祥 丹 雅 敏 山 本 吉 毅 泉 谷 清 文 武 井 勝 久 小 堀 明 美 川 和 田 昌 弘 大 谷 実 浅 沼 佳 子 湯 田 道 徳 渡 部 由 香

(1) 報告事項

- ア 荒川区学習支援事業「学びサポートあらかわ」の実施について
- イ 社会教育関係団体への補助金について
- ウ あらかわ子ども読書フェスティバルに向けた取り組みについて
- エ 中学・高校生世代を対象としたイベントスタッフの募集について

(2) その他

委員長 では、ただいまから荒川区教育委員会の第11回定例会を開催いたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。5名出席でございます。

会議録の署名委員は、青山委員及び高野委員をお願いいたします。

教育長、あいさつをお願いいたします。

教育長 本日の審議、よろしくをお願いいたします。

委員長 4月19日開催の第7回定例会の会議録及び4月27日開催の第8回定例会の会議録が机上に配付されております。次回の定例会で承認についてお諮りいたしますので、次回までに確認し、何かお気づきの点がございましたら、事務局まで連絡をお願いいたします。

それでは、本日の議事日程に従いまして議事を進めます。

皆様にお送りした議事日程におきましては、報告予定が3件となっておりますが、配付資料のとおり4件に変更となっております。

初めの議題ですが、「荒川区学習支援事業『学びサポートあらかわ』の実施について」でございます。本日は、子育て支援部の川和田参事に出席をお願いしております。それでは、御説明をお願いいたします。

子育て支援課長 子育て支援課長の川和田でございます。御手元のペーパーに基づきまして、荒川区学習支援事業、愛称名「学びサポートあらかわ」とつけてございますが、これの実施について御説明をいたします。

骨子でございますが、子供が学校外で自由に学習ができ、個別に相談や学習支援を受けられる機会を設けるため、荒川区学習支援事業「学びサポートあらかわ」を実施するものでございます。

目的でございますが、目的は、子供たちが自由に学習できる環境を整えるとともに、指導員等を配置し、子供たちの個別相談や学習指導を行うことによって基礎的基本的な学習内容の習得や学習意欲の向上を支援し、もって子供たちの自立を促すというものでございます。

若干、補足をさせていただきますが、こちらの荒川区で荒川区自治総合研究所、こちらが子供の貧困、社会排除問題研究プロジェクト、こちらを研究しておりまして、そちらの最終報告書の記述に、学力不足は就職の不利につながると。そういったことがめぐりめぐって、貧困との因果関係もあるというような形で指摘されておりまして、それを学習支援の観点から、その報告に基づいて提言されたものを形に、子育て支援部としてまとめた事業がこちらでございます。

事業の概要でございますが、対象は小学校5年生から中学3年生までとしておりますが、これも想定としましては、例えば基礎的、基本的な学習内容を習得していないため、学校の授業を理解することができない子供、若しくは御家庭、保護者に学習の必要性に対する理解がないとか、自宅では学習ができない子供ですとか、場合によっては塾へ行きたいのだけれども、保護者の収入が低いとか、そういった理解がなくて通えない子供、そういったことを想定してございます。

なお、このペーパーに今申し上げたことを記載していない理由は、外にこういうふうに出す場合に、学びサポートあらかわに来る子供たち、あまり貧困対策だとか収入とか、そういったものを募集の段階で大きく扱うと、そちらに参加する子供たちにレッテルを張られるようで、あまり好ましくないのではないかとということで、あえて説明のペーパーには、そういった貧困とか学力の関係等、ネガティブな表現は避けて記載してございます。

実施回数・時間等でございますが、毎週、月・水・金、16時から19時15分ということで、小学生は16時から90分間、中学生は17時45分から19時15分の90分間ということで、保護者負担については原則無料といたします。

開設場所ですが、こちらは生涯学習センターでございます。

実施体制は、コーディネーター2名、それと指導員3名から5名程度を配置するというので、コーディネーター、こちらは教員の経験者等を想定しておりますが、教材等の準備や指導員の出勤日を調整するほか、全体の状況を把握し、事業の円滑な進行に努めるという内容でございます。

また指導員、こちらは教員を志望する、これから学校の先生になりたいと思っている大学生等をお願いするというので、指導員に学習指導や相談等をお願いするというので予定しております。

なお、首都圏の大学、300校ほどの学務課の方に募集のチラシを送って、この指導員の募集をしているところでございます。

その他でございますが、区は、利用者、コーディネーター、指導員等を被保険者とする傷害保険に加入をいたします。

事業の開始は6月下旬ということで、児童・生徒の募集は、全小中学校に参加募集のポスターを掲示する。併せて、ホームページ等に掲載して募集をいたします。

なお、定員はそれぞれ、小学校、中学校それぞれ20名程度ということで、原則として学校または自宅から一人で来られる子供ということで想定しております。ただし、小学生は自転車で来ることは不可と指定してございます。

雑駁でございますが、説明は以上でございます。

委員長 ただいまの説明につきまして質問などございますでしょうか。

青山委員 教育基本法は先般の改正で家庭教育重視主義を新たに取り入れたわけですが、実際には家庭教育重視主義といっても、それに対応できない家庭も多いわけですから、これに対してこういう形で対応するということは、やはり区としては必要なことだと思います。教育委員会ではなくて、子育て支援部で実施するというのも非常に意義があると思いますので、ぜひ月・水・金とか言わないで、土・日も含めてやるとか。とりあえずはこれでやるとしても、実施状況によっては柔軟に積極的に対応していくということも含めて、やっていただければと思います。

高野委員 よろしいですか。

委員長 お願いします。

高野委員 青山先生とほぼ同じことですが、対象者は20人ということですが、大体、現状では予測人数というのはどのぐらいいるものでしょうか。

子育て支援課長 予測はちょっと.....。

高野委員 ある程度、限られていますものね。

子育て支援課長 我々としては集まるかなという、そういった危惧を抱いているのですけれども、ただ、別の見方からすると、たくさん集まってしまってどうするのだという御意見もあります。今、ちょうど募集をかけておりますので、現場を見ないと何とも言えない状況でございます。

高野委員 教育センター研究室は、広くてたくさん部屋がありますけれども、人数が膨らんだりすると、いろいろ考えなければならぬかと思えます。6日水曜日に文京区役所に行きました。子育て相談の佐藤部長に会ってきました。そのときに案内されたのが、区役所の中の相談室で、大勢の人が来ていたように思います。大変便利で、活用されているように思いました。ただただ勉強のことだけではなく、いろいろな問題が含まれていると思えますから、職員の方には、それも含めてやってくださるよう、将来、大きく進展することを期待いたします。

子育て支援課長 ありがとうございます。指導員については、勉強だけではなくて、取りかかりとしては個別のいろいろな相談とか、そちらも含まれるような形になるのではないかと想定しております。

高田委員 6月下旬ということは、これからすぐ募集になるのですか。

子育て支援課長 募集については、既にチラシを、教育委員会事務局を通じて、各学校に送付して貼っていただいております。したがって、募集は昨日あたりから開始しております。

教育長 実施については、校長会で小中学校に説明してもらった方がいいですね。

子育て支援課長 今、教育長からお話ございましたけれども、これを実施するに当たって、小学校の校長会と中学校の校長会、それぞれ校長会の幹事の先生にもいろいろお諮りして、校長会にも小学校、中学校、それぞれ行って、こういうふうにやりたいのですけれども方針をお話しして、「やるのだったらこういうふうにした方がいいよ」というアドバイスを受けて、さらにそれをまとめたものをこういう形ということで、校長会の方にも投げかけている状況でございます。

教育部長 少し補足をさせていただいてよろしいでしょうか。この事業につきましては、各学校で行っている学力向上のための補習学習とは少し切り口が違ってきます。その焦点は家庭の経済状況というところが一つ大きなものがございますので、だからこそ青山先生が言われましたけれども、子育て支援部の事業ということで行っています。

ただ、実態として、家庭の経済状況がわかって、子供の学力の状況がわかって、その子供の学

習意欲がわかってということになると、やはり各学校が主体的になって当該の児童あるいは生徒を実質的には推薦をしていくような形でないと、この本来の事業の趣旨は生きてこないのかなと思っています。

実は昨日、文教子育て支援委員会、議会の方にも御報告差し上げたときに、同じようなことを各議員の先生からも指摘を受けております。事業の趣旨自身はとてもいいのだから、実際に機能するように動かしていきなさいという指示を受けていますので、その辺を含めて教育委員会からも各学校長の方によく説明をして、きちんと推薦してもらうような形で進めていければと思っています。

高田委員 どういうふうに推薦するかというのが難しいのではないかと思います。優秀でよくできる子が、「僕もこっちに入りたい」と言った場合、「君はだめだよ」と言えるのかどうかとか、多分基準があって、学校側としても結構大変なのではないかなと思います。

その点と、テストがない自由な学習のサポートだから、とてもすばらしいのだけれども、その中でいろいろな学校の子が集まったときに、うまくいかなくなることがあったりした場合には、教育委員会はそれに対して関知しないのかどうか。

子育て支援課長 学校の話なので、学校の先生等には御相談いたしますけれども、基本的には我々子育て支援部で、何とか対応したいと考えております。

高田委員 サポートが問題ですね。

教育長 いろいろな子供が入ってくる可能性はあります。実際に私もそういうことを経験したことがあるのですけれども、特に一番大変なのは、ADHDとか、情緒的に不安定な子供が入ってきて、その子が全体をかき回したりした場合、専門的な先生が対応していくということも必要になってくることもある。その場合、「だめだ」とやめさせるわけにいかないから、それが一番大変なのです。

ある学校へ授業参観に行ったとき、廊下に座っている児童がいたので「何で廊下に座っているの」と聞いたら、「いや、あの子はそういう主義なのです」と。いつも廊下に座っていたり、図書館に行って歩き回ったりして、結局、授業に参加していないのですよ。そういう子も中にいたりしますので、いろいろなケースの中で、やはり柔軟に対応していくということが必要だと思います。

高田委員 この趣旨をよく理解してもらって、学びに来ているので、みんなの雰囲気を乱すような子はやめてもらうとかしないといけませんね。

教育部長 この事業の趣旨を生かしていくには、経済的な状況が原因となって学力が上がっていない子供たちがここへ来れば、ちゃんと上がっていくのだという、やはりきちんとした状況を学校が把握した上で、ふさわしい子供をやはり送り出していくのが、一番効果があるのかなと思

っています。

区として初めてのことで、ここで成功しないと、この先なかなか展望も見えませんが、やはり滑り出しは大事だと思っています。

高田委員 無料の塾みたいなものですね。

子育て支援課長 そうですね。

委員長 この荒川区の自治総合研究所のプロジェクトというのは、本当に全国的にも非常に注目されたプロジェクトだと思います。そしてまた、その最終報告で出された内容を具体的な施策として反映されているというのは、本当にすばらしいことだなと思っています。

それで、私からの質問なのですが、この指導員で教員を志望する大学生等とありまして、かなり対応が難しいことも想定される場合に、教員を志望する大学生で対応ができるのか、どうなのか、そこら辺はいかがですか。

子育て支援課長 コーディネーターを2人つけておりますので、その子供に合わせたやり方というのはコーディネーターの方にちょっと検討していただいて、実際にやってもらうものについては指導員にお願いするというような形で。実際は画一的にというよりは、その子に合わせたオーダーメイドみたいなものをしていく形になると思います。その上で、先ほど教育長がおっしゃっていたように、なかなか対応が困難な場合には、ほかのセクションにちょっと応援をお願いしてやっていくような形になるのではないかと考えております。

高野委員 もう一言。医学的に、一つのものに関してはものすごく集中できるが、対人関係が非常に悪いという人たちがいます。そういう人たちを発掘して、早めに将来に合うような道に導くようなものまで展開するといいですね。

委員長 ぜひ成功させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、「社会教育関係団体への補助金について」、御説明をお願いいたします。

社会教育課長 平成24年度社会教育関係団体への補助金について、御報告いたします。

骨子でございますが、平成24年度社会教育関係団体補助金を交付するにあたり、社会教育法第13条の規定に基づき、社会教育委員の会議で意見を聴取したところ、下記のとおり了承されたので報告するものでございます。

社会教育団体については、私ども、社会教育課の所管分と社会体育課の所管分がございしますが、本日は一括で私から説明をさせていただきます。

内容でございます。まず社会教育課の所管分でございます。団体補助については全部で18件を予定してございます。荒川区文化団体連盟以下、記載のとおりでございますが、なお、18件のうち9件については、小学校で実施されます合宿通学の実行委員会に対する補助でございます。

この補助金額80万は、予算の中で上限80万と定められておりますので、その中で各学校に補助をしていく予定になってございます。

続きまして、事業補助でございます。全部で11件を予定してございます。荒川区文化総合講座（荒川区文化団体連盟）以下、記載のとおり、少年キャンプ、子ども会大会等を予定してございます。

裏面を御覧いただきたいと思えます。裏面が社会体育課所管分でございます。社会体育所管分の団体補助は1件で、荒川区体育協会でございます。

事業補助については、全部で6件でございます。区民ハイキング（荒川区レクリエーション協会）以下、記載のとおり6件でございます。

なお、参考までに社会教育法第13条の規定を記載させていただきましたので、併せて御覧いただければと思えます。

報告は以上でございます。

委員長 ただいまの説明について、質問などはございますでしょうか。

社会教育課長 社会教育課の事業補助のうち、25番、26番、27番、28番、29番が地域の教育力向上の補助金でございます。そのうち25番については昨年と同じ団体でございますが、26、27、28、29が新規でございます。そのうち、26番「みんなで子育て あら！ハッピー」という団体と28番「ナチュラルダイニング」の団体につきましては、荒川区が22年度に創設しましたコミュニティカレッジの第1期生の方々が中心になって始めた事業でございます。少しずつですが、このような形でさせていただきます。

また、情報提供でございますが、5月の中旬、バラの市から6月の中旬まで1カ月間にわたって、スイーツの区内における10店舗のウォークラリーを同じように、コミュニティカレッジの第1期生が中心になって行って、今月、2回にわたって、全部できた人には表彰状を渡すというような催しも予定しているということで、少しずつでございますが、コミュニティカレッジの方も今年度の秋に第1期生が卒業しますので、卒業に向けてさまざまな活動に取り組んでいるところでございます。併せて御報告させていただきます。

高野委員 それはよかったですね。

委員長 そうですね。荒川コミュニティカレッジが地域の中核の人材を育てているということで、非常によかったと思えます。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長 では、続きまして、「あらかわ子ども読書フェスティバルに向けた取り組みについて」、御説明をお願いいたします。

南千住図書館長 それでは、「あらかわ子ども読書フェスティバルに向けた取り組みについて」、御説明いたします。

骨子でございます。子供たちが多様な方法で本に親しむきっかけをつくるための事業として、「あらかわ子ども読書フェスティバル」の開催に合わせまして、「第五回柳田邦男絵本大賞」を実施するものでございます。

内容について御説明いたします。目的でございます。多世代にわたる絵本の読書の普及促進を図る。本を読むきっかけづくりになればと考えてございます。

募集作品でございますが、子供に対する読み聞かせ体験、皆さんに伝えたい絵本の感想、自分が読んだ絵本の感動など、幅広い内容を柳田先生に送る手紙形式として書いたものを募集いたします。

募集部門でございますが、中学生以下の皆さんから募集いたします子どもの部、こちらは400字～800字程度で、例年500名を超える数の応募がございます。もう一つ、一般の部、こちらは1,200字から1,600字ですが、例年30名程度の応募がございます。

募集期間といたしましては、7月16日から9月30日まで。

その後の審査でございますが、教育委員会事務局（南千住図書館）内で一義的な審査を行いまして、二次選考といたしまして柳田邦男先生と、東京荒川ロータリークラブ賞につきましては、同クラブに審査をお願いしております。

表彰の点数については、記載のとおりとなっております。

本事業を実施するに至った経過でございますが、平成20年3月に実施しました、当時、「区政75周年記念荒川区教育フォーラム」において、柳田邦男先生が、「大人こそ絵本の素晴らしさを知ってほしい」というメッセージを発信されました。このメッセージは区の子ども読書活動推進計画の目指すところと同じということがございましたので、柳田先生の御協力をいただきまして、平成20年度から絵本大賞を実施しているものでございます。

今後の予定でございますが、例年、受賞者の決定なのですが、柳田先生、お忙しい関係もありまして、12月中旬ごろまでに決定すればいいなというふうに思っております。

表彰式でございますが、平成25年1月12日土曜日の午後1時30分からを予定してございます。教育委員の先生方にも御出席をお願いするものでございますので、御予定をいただければと考えてございます。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

委員長 ただいまの説明につきまして、質問などございますでしょうか。

今年、表彰式に参加させていただいたのですが、柳田先生が本当に素晴らしい話をされて、出席させていただいてよかったなと思っております。また、それぞれ読み上げがありま

して、それが感動的なのです。来年も都合がつけば、ぜひ行きたいと思います。

高田委員 今度は、4回目になるのですか。

南千住図書館長 5回目です。

高田委員 子どもの部は毎年、年が変わってくるのだけれども、一般の部というのは30人ぐらい。もう今までの4回の中で同じ人というのが随分あるのでしょうか。どんどんどんどん、一般の部も変わって、いろいろな人が参加してくれた方がいいと思いますが。

南千住図書館長 そうですね。同じ方が繰り返しというところも、毎年、この趣旨に賛同していただいて、柳田先生にお手紙を差し上げるという形で御参加いただいている方もいらっしゃるのですが、できれば広く応募していただきたいと考えております。

教育長 80周年の冠はつけないのですか。

南千住図書館長 80周年の冠につきましては、表彰式のところで、柳田先生の御都合とかというものがなかなか確認できないような状況でございますので、検討中でございます。

高田委員 だんだん、柳田先生の心をつかむ書き方を覚えてきてしまった人がいますね。

委員長 柳田先生も一つ一つにコメントを書き添えてくださって、すばらしいと思います。あれだけお忙しい中で書いていただけますので、ありがたいです。

では、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長 では、続きまして、「中学・高校生世代を対象としたイベントスタッフの募集について」、説明をお願いいたします。

南千住図書館長 それでは、「中学生・高校生世代を対象としたイベントスタッフの募集について」、御説明いたします。

スタッフを募集するのは今年度が初めてということでございますので、簡単に御説明をいたします。

骨子でございます。区立図書館の利用が減少してきている中学生・高校生世代に、イベントの企画運営に参加してもらうことで、本や図書館に興味を持ち、表現の場のきっかけにもらうために、イベントスタッフを募集することといたしました。

イメージとしましては、成人式と同じように企画段階から若い方々に集まっていただきたいというものでございます。

募集対象でございます。区内在住・在学の中学生以上の10代、20名程度を募集するもので、イベント企画からイベントの実施まで御参加いただくこととなっております。

活動期間は7月終わりから12月までとなっております。

企画の内容でございますが、中学生・高校生世代に興味のある「コミック」いわゆる漫画

などですが、それをテーマに、図書館を活用した物事の調べ方を身につけ、さまざまな分野へ視野を広げるとともに、自己表現の場をつくるということを目的にした企画とする予定でございます。

実施内容としましては、企画展示のところ、いろいろな特別コーナーの設置ですとか、調べ方が身につくようなクイズラリーの実施などを提案していきたいと考えてございます。

イベント自体は平成24年12月第1週目の日曜日を予定してございまして、10代によるお勧めコミックの紹介ですとか、図書館職員によるブックトークなどの内容を考えてございます。

参考といたしまして、3番に昨年度の実施内容を記載してございますが、こちらは御覧のとおりとなっておりますので、御確認いただければと思います。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

委員長 ただいまの説明につきまして、質問などございますでしょうか。

「区立図書館の利用が減少してきている」とあるのですが、これはこういった状況になっているのでしょうか。

南千住図書館長 区立図書館の利用者自体が下がっているのではなくて、小学生のときはいっぱい利用しているのだけれども、中学生、高校生になると利用しなくなって、また子供に絵本を読ませるような世代になると利用者がという、どうしても中高生が図書館に足を運んでくれないというところがありまして、何とか足を運んでもらうきっかけにこのイベントを考えてございます。

高野委員 これは、中学生に対しての啓発活動としてすばらしいイベントだと思います。コミックがいいのかどうかはちょっと……。

教育長 そう、そう。コミックじゃないと来ないからということなのですか。

南千住図書館長 一応、イベントの内容としては、例えば、『のだめカンタービレ』、書名を出しているのかわからないのですが、音楽のことをテーマにした本の中から、「じゃあ、ベートーベンってどんな人だろう」とか、「バッハってどんな人だろう」と調べてみるとか、あと、今、百人一首を題材にしたコミックなどもございますので、そこから、「百人一首って、じゃあ、いつつくられたのだろう。だれが詠んだのだろう」というようなところまで広げていけるようなイベントを考えています。

青山委員 いいですね。

教育長 いいですね。

青山委員 ほかの分野の科目にも行きますよね。ベートーベンはどこに住んでいたんだ。ウィーンだ。ウィーンはどこにあるんだ。オーストリア。ハプスブルクとかバロックとか……。

教育長 何で耳が聞こえなくなったかというのわかりますよ。

青山委員 広がっていきますよね。

委員長 これは高校生もかかわるといことで、非常にいいと思うのですが、具体的には高校生の場合、どういうふうな形で募集になるのですか。

南千住図書館長 一応、レギュラー的にティーンズのコーナーに来てくれている高校生が何人かおられますので、そこから声をかけて、「お友達、ちょっと誘ってきて」というところで、初年度は始めてみようかと考えております。

委員長 そうですか。わかりました。

高野委員 おもしろいですね。いろいろな展開がありますね。やはり中学生対象がいいですね。

委員長 では、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長 それでは、その他の報告事項ですが、「6月から8月までの教育委員会関係主要行事」につきまして、配付資料のとおりでございますが、これに関しまして何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 では、予定しておりました事項は以上ですが、事務局より連絡事項等ございますでしょうか。

教育総務課長 御手元に「平成24年度教育委員会の日程」がございます。次回の6月22日、金曜日につきましては、場所を変更させていただきまして、第四中学校で開催をさせていただきたいと思っております。大変恐縮でございますけれども、第四中学校に1時30分という形で、中学校の2階の第1会議室の方に集合していただきたいと思っております。その後、授業視察等をしまして、そこで教育委員会を開催する予定になってございますので、詳細についてはまた当日になってまいりますけれども、すみませんが、この日程で変更をよろしく願いいたします。

高野委員 1校しかないけれども、いいのですか、この辺の事情を見て。中学には、今年たくさん行きましようと言っていました。

教育部長 とりあえず、まず皮切りに第四中学校ということを考えておりまして、この先、また何校か時期を見ながら御提案を差し上げたいと思っております。

高田委員 あした、四中は、運動会だけれども、雨だといつになるのですか。

教育部長 12日火曜日になります。

教育長 あした行かれる方がいますから、雨が降った場合の連絡を指導室の方でしてください。

指導室長 私の方から。

高野委員 四中へ行きます。

教育長 お願いします。

高野委員 何時ごろ来ますか。

指導室長 学校の方が7時決定の予定ですね。その少し後になるかと思っております。

高野委員 わかりました。7時にください。四中は、町屋からちょっと行ったところですね。

高田委員 町屋から近いですね。町屋の後ろの改札を出た方が近い。

委員長 では、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長 それでは、そのほかはないようですので、以上をもちまして、教育委員会第11回定例会を閉会いたします。

了